

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明	
家計 動向 関連 (北関東)	良く なっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・前年同月比で来客数が107%、売上も106%と好調である。	
		自動車備品販売店（経営者）	販売量の動き	・ここ1～2か月の来客、販売量では、特に車の販売が顕著である。	
		住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・前月同様に販売は好調に推移しており、上半期の受注見通しは前年同期比1.5倍となっている。ただし、戸建住宅部門は、消費税増税前の駆け込み需要が期待されていた割に前年同期比11%増にとどまっている。対照的に賃貸住宅、店舗の受注は、前年同期比で2倍近くまで伸びており、年内までは好調が持続しそうだ。	
	やや良く なっている	スーパー（店長）	スーパー（店長）	販売量の動き	・競合状況から客数は前年割れだが、買上点数と1点当たり単価が上がってきている。すべての客がそうとは言い切れないが、傾向的には悪くない。野菜の価格が高いのも結果的に要因の1つになっている。
			乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・新型車の受注が良好なためである。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・今月発売の新型車の受注が好調である。	
		住関連専門店（経営者）	単価の動き	・買上商品の一品単価、客単価共に、ここ2か月はわずかながら上昇してきている。また、購入商品の部門別占有率も、消耗品、日用品の構成比が減少し、レジャー、家電、インテリア用品等の趣味し好の高い部門が上昇基調にある。	
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・地域的に8月末には県外客も一段落していたが、今月は残暑の影響なのか中旬まで県外からの客が続いた。	
		スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数はそれほど変化がなく、悪い日と良い日かはっきり分かれている感じであるが、客単価はいくらか良くなってきている。気持ち的にいくらか明るくなってきた程度なので、増税とか言い出すと、大幅に落ち込むような気がして心配である。	
		観光型ホテル（営業担当）	来客数の動き	・春以降、毎月来客数が増加傾向にある。客室稼働率も前年同月比で微増である。	
都市型ホテル（営業担当）		販売量の動き	・東北地域のビジネスホテルは前年同月に比べ稼働率が高くなっている。東北地域というのはあまり稼働率が高くなかったが、今月は非常に高稼働で目を見張るものがある。県南にもホテルがあるが、そちらについては前年並みである。		
通信会社（営業担当）		お客様の様子	・アベノミクス効果により、一部高額所得層の消費意欲が高まりデパートなどの売上は伸びているが、全体としてはまだ様子見の状況である。ただし、景気が回復傾向にあることで、一時的な出費等に関しては、徐々に財布のひもが緩んできている。		
住宅販売会社（経営者）		来客数の動き	・消費税増税が決定的になったことが原因で、潜在的な顧客が本格的に動き出した。成約率も高く、やや良くなってきている。		
変わらない	商店街（代表者）	商店街（代表者）	販売量の動き	・朝夕涼しくなり、運動会等、非常に良い季節になるが、相変わらず商店街は人通りも少なく、物も売れない。	
		商店街（代表者）	お客様の様子	・商店街の歩行者天国の恒例イベントの来場者は前年より少なく、各商店への入店客もなく、疲労だけが残った。	
	一般小売店〔精肉〕（経営者）	お客様の様子	・今月は祭日、日曜と、イベントのある日が雨で流れてしまい、人があまり動かなかった。暑さも厳しいので動きが良くない。したがって、商品もあまり売れなかった。		
	一般小売店〔家電〕（経営者）	お客様の様子	・消費税増税に関係なく商品の動きは鈍い。これといって購買意欲を引き出す商品もなく、壊れてしまったので仕方なく購入に至るケースのみである。太陽光発電等の金額の大きな物件は大手の施策で、小売業者の参入は厳しいところである。		
	一般小売店〔家電〕（経営者）	販売量の動き	・猛暑が落ち着き、エアコン、冷蔵庫等の動きが若干落ち込んできており、その分売上が伸び悩んでいる。		
	一般小売店〔青果〕（店長）	来客数の動き	・相変わらず必要以外の物は買わず、単品買いである。毎日決まった客しか来ないので、流れは非常に悪い。		

百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・店外催事や、大型食品物産展、ハウスカードのポイントアップ等の販促に対する反応は良いが、トータルでみると前年実績の確保には至っていない。依然、消費には慎重である。
百貨店（販売促進担当）	販売量の動き	・前年に比べ気温が低めに推移し、婦人、紳士、子どもの秋物衣料が動いている。一方で食料品、雑貨関連が低調なため、トータルでは3か月前と変わらない。
百貨店（店長）	販売量の動き	・今年は軽衣料や雑貨を中心に秋物の動きが早く、食材も例年より上質な物の動きが良い。
百貨店（店長）	単価の動き	・衣料品はミセス層の購買が増え、ヤングが伸び悩んでいるが、衣料品全体では客単価が上昇している。食品も高品質の商品が売上が伸び、単価上昇につながっているが、全体的には大きい変化はない。
スーパー（総務担当）	販売量の動き	・平均単価は上がっているが、数量が減っている状況で、売上は前年と変わっていない。
スーパー（統括）	来客数の動き	・昨年ほどの残暑がなく、非常に安定した天候のため来客数が伸びており、高品質のスイーツや菓子が伸びており、衣料品も七分袖、長袖の秋物の動きが良い。
スーパー（商品部担当）	販売量の動き	・数か月、買上点数に変化がない状態である。
家電量販店（店長）	販売量の動き	・販売の大きな柱であったテレビは、エコポイントで需要が伸びその後反動で厳しい販売状況であったが、ようやく金額比で前年を上回るようになってきた。テレビに関しては買換えが大きく寄与しており、4K規格の付加価値商品も伸び始めている。この動きが続けば、景気は良い方向に安定的に向かう。
乗用車販売店（経営者）	単価の動き	・今月は軽自動車の商談が多かったが、ただでさえ利益率の低い軽自動車販売に他店との競合が加わり、利益の確保がかなり厳しくなっている。
乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・大手自動車メーカーの企業城下町である。第一次下請までは本当に忙しいが、第二次以下は上からの締め付けが厳しく、新規の設備投資はもちろん、将来の存続すら考えるところが出始めている。
乗用車販売店（経営者）	お客様の様子	・製造業である顧客企業では、商談はやや増えているが、それがまだ売につながっていないとの声が多いようである。
乗用車販売店（従業員）	販売量の動き	・販売台数は伸びているが、コンパクトカーの台数が多く、収益面では厳しい状況である。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・例年9、10月は販売台数が伸びる月だが、今月はここ2～3か月と同じように新車等の売行きが本当に悪い。修理関係は入ってきているが、ここ2～3か月は販売台数、修理関係は同じような状態で推移している。
住関連専門店（店長）	お客様の様子	・客単価は上がっているが、客数は減少している。
住関連専門店（仕入担当）	来客数の動き	・2度の連休も客数は伸びておらず、消費税増税に関する報道の影響も感じている。
一般レストラン（経営者）	お客様の様子	・ここ数か月、来客数、客単価共にあまり変わりがなく、売上もほぼ同じである。
一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・秋の需要が始まる前で中だるみ傾向である。客も会社等の計画がなく、来店しづらいようである。
スナック（経営者）	お客様の様子	・まだ地方にはアベノミクスが来ていないようである。
観光型ホテル（経営者）	来客数の動き	・客の入込みは6月と9月では若干9月が多いものの、大きな差異はないので変わらない。
観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・6月から売上の状況は横ばいで推移している。旅館業界の売上の傾向はバブル期以降下降傾向なので、横ばいになっているということは、社会全体としては上昇傾向かもしれない。
都市型ホテル（支配人）	来客数の動き	・8月は行楽客、海水浴客の動きが若干あったが、9月に入ってからビジネス客が弱含みの動きである。
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・9月は市内の記念式典等が入ったため、前年より若干上向きになっている。景気はそんなに良くないが、大きな会が入ったため売上も変わっている。今後も様々な式典などが入ってくれれば嬉しいが、まだそういう状況ではない。
旅行代理店（従業員）	単価の動き	・為替変動が激しいために販売価格が安定しない。
タクシー（経営者）	お客様の様子	・昼の動きも良くないが、特に深夜の動きが悪く、前年同月比で5%の減少であった。

	通信会社（経営者）	お客様の様子	・加入を含めた問い合わせは増えつつあるが、加入増には至らない。
	通信会社（局長）	販売量の動き	・新規住宅取得等の駆け込み需要による当社商品の販売増を期待していたが、他社の新規商品投入時期と重なり、期待ほどの結果とはならず、やや拍子抜けの感がある。3か月前と比べ、景気は変わっていない。
	遊園地（職員）	来客数の動き	・新規施設のオープンや外国人観光客の増加により、来客数は堅調に推移している。
	ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・月初の予約状況は順調であった。これは割引料金等で組数は少ないが地元のコンペの数が増えたからである。日曜、祝日の台風では被害はなかったものの、クローズが発生し、売上は下がった。
	競輪場（職員）	お客様の様子	・入場者数、購買単価、売上等、ほとんど変化がみられない。
	美容室（経営者）	それ以外	・ここ最近従業員の退職が増えてきている。美容師を長く勤めていると将来に対して不安があり、待遇も悪いため辞めていくということもある。今月は普通の月よりも多い。美容業界は慢性的に従業員不足の状況になっている。
	その他サービス [立体駐車場] (従業員)	来客数の動き	・来客数、単価、販売量共に横ばいなので、変化はない。
	その他サービス [イベント企画] (職員)	お客様の様子	・街中での客の動きは、依然として変わらない。
	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・依頼件数はほとんど変わらないが、仕事の間隔に少しずつ余裕ができています。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・連休効果で訪問客が増加している。
	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・北関東の不動産価格は依然低迷している。デフレはやや止まったかなという感じはするが、動きの方はまだ鈍い。ただし、安い中古住宅へは少し客も興味を持つようになってきている。アパート、マンション、貸店舗等は、相変わらずの低迷で、家賃は下げ止まったと思うが、まだ空室が非常に多く、入居率が悪い状況である。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・夏バテが買物の習慣にも影響を与えているのか、街中はいつも閑散としている。加えて3連休に台風も来たので客足が止まってしまった。
	商店街（代表者）	販売量の動き	・毎年運動会シーズンになると、子供たちの体育衣料等をそろえるが、今年の傾向をみていると、昨年、一昨年に比べかなり売上が落ち込んで、景気が良くないと感じている。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・春先の天候異常で心配された旬の果物が、夏の暑さで持ち直したことにより贈答需要も持ちこたえている。
	スーパー（経営者）	競争相手の様子	・企業撤退やリストラなどの雇用情勢は改善されていない。また、競争相手の出店など事業環境は激しさを増している。
	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・2週間ほど前に至近距離に同業者の出店があり、少なからず影響を受けている。客がある程度減り、業績も悪化している。
	高級レストラン (店長)	来客数の動き	・ランチタイムにサラリーマンやOLの客がほとんど出歩かないようになっている。スーパーの150円弁当やコンビニのおにぎり、社員食堂など、昼食代に500円以下しか使わなくなっている。
	一般レストラン (経営者)	来客数の動き	・消費税率引き上げ時期の発表がせまり、一般消費者は不安ばかりが先立って消費を抑えている傾向がある。
	スナック（経営者）	単価の動き	・シルバー世代の来客が増えたが、単価が安く、売上が伸び悩んでいる。
	旅行代理店（所長）	来客数の動き	・訪日外国人の数は堅調に伸びているが、邦人団体客の数は依然厳しい状況である。
	タクシー運転手	競争相手の様子	・新規参入が1社あり、他地域からも同業者が進出してきたため、売上が減少している。
	通信会社（経営者）	単価の動き	・家庭用LPガス販売事業については競争が激しく、仕入価格の高騰分を売価に転嫁できない。
	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・選挙や天候不順、台風などの影響もあり、少しずつ来客数が減少している。
	ゴルフ場（業務担当）	単価の動き	・今月は台風の影響等もあり、レジャー産業については前年同月比でマイナスになっている。

	悪く なっている	コンビニ（経営者）	来客数の動き	・店舗前の道路が4車線になり、反対車線からの客が入店できずに客数が激減し、散々である。
		コンビニ（店長）	競争相手の様子	・競合他社がオープンし、当店と同じ動線ということもあり、来客数を含めすべて確実に下がっている。
		衣料品専門店（販売担当）	来客数の動き	・我々の業界では2月と8月は暇なニッパチと言われているが、ここ数年はニッパチのハチが9月まで続いていて、8月が2か月あるような状況で、かなり悪い。特に、今月は中旬以降、秋らしい天候になってからがかなりひどく、背景に消費税の話があるという感じを受けている。客の話を聞いていても、自己防衛に走っている雰囲気、財布のひもがものすごく固く、今月はかなり悪くなっている。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・夜の時間帯の客数が激減している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・8月の調査結果をみると、他地域の同業者は動きがあるようだが、当地域では相変わらずタクシーを利用する客は少ない。深夜2時まで営業しているが、午前0時の最終電車が行った後、2時まで1回も営業できないで終了してしまっている。
		通信会社（経営者）	販売量の動き	・受注の伸びはなく、相変わらずの下降線をたどっている。中央では、景気回復、オリンピック効果、などと騒がれているが、当地域の被災状況や風評被害はいまだ収まらず、前を向く様子は感じられない。
企業 動向 関連 (北関東)	良く なっている	食料品製造業（営業統括）	受注量や販売量の動き	・秋の観光シーズンに入り、好天にも恵まれ、工場見学者は平年より約1割増となっている。
		その他製造業〔環境機器〕（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・主要製品は自社開発装置を基本的に5年、7年、10年のメンテナンスリースで、ユーザーの仕様希望に直接合わせられるため、受注価格や販売価格に変わりはない。
	やや良く なっている	一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・全体的に仕事の動きが出てきているが、特にトラック関連の取引先の忙しさが顕著で、対応に苦慮する面が出てきている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・7月～9月にかけて取引先、販売先などの業績がやや良くなっているが、今後10月は若干落ち、2～3か月先は全く分からない。
		輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・大手自動車メーカーの3か月見通しで前月の発注計画が今月になって上ぶれしていることが1点、もう1点は原材料価格が上昇傾向に入っているということで、増収減益の傾向に入ってきたような感じである。原材料価格の値上がりをコストに跳ね返すことはなかなか難しくなっているので、10月以降のコストダウン要請が非常に厳しくなってきたと感じている。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・製造業では円安効果、非製造業では建設業を中心に業況感の改善がみられる。
		金融業（経営企画担当）	取引先の様子	・旅館業については、富士山の世界遺産登録の影響により、客足が伸びている。
		金融業（役員）	受注量や販売量の動き	・やや上向いているという回答だが、上向いているのは一部の建設、土木、自動車関連のみである。他の製造業や卸、小売はまだ当地域経済への影響はない。
		化学工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・仕入原材料価格が大幅に上がった。国内では供給元がほぼ1社なので他から購入することができない。7月、8月、9月において価格への転嫁ができず、収益が圧迫され困っている。
変わらない		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量、販売量共に相変わらずの低迷が続いている。
		窯業・土石製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・依然として変わらない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・9月は上半期末のため、在庫調整で受注量が減少している。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・台風の影響で9月中旬の展示会の来場者数は前月と比べ、軒並み20%近く減少した。その後の動きも鈍く、夏前からの低迷がまだ続いている。
		輸送業（営業担当）	取引先の様子	・9月は例年だと、レジャー用品、バーベキュー用品、エクテリア、ガーデニング用品等の物量が多い時期だが、天候不順や豪雨などにより物量が多少落ち込んだ。また、青果も野菜のできが悪いこともあって多少物量が落ち込み、全体的に前年同月比で10%の落ち込みとなっている。

	不動産業（管理担当）	取引先の様子	・毎年同じ月に実施している定期保守作業を、延期して欲しいとの要請が出てきた。今まではそのようなことはなかった。	
	広告代理店（営業担当）	受注量や販売量の動き	・景気回復の実感が無いので、販売促進に関する予算も増えない。	
	新聞販売店〔広告〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・7月、8月と安定した動きだったチラシ出稿量だが、今月は前年比で93.1%と大きく減少している。明確な要因が探れない状況であるが、夏季の暑さにつれて出稿した後の一服感かという同業者もあり、チラシ広告の安定回復はまだ先になると思われる。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・食品製造小売、飲食店、運送業、物流関連、中古車販売、下請製造業など、好不調の波があり、一進一退の状態である。そうした中、製材、建築、土木などの建設業関連の一部にはやや好調なところもある。	
	社会保険労務士	取引先の様子	・輸出関連の企業で調子の良い事業所もあるが、小売やサービス関連など一般消費者が相手の事業所は厳しい状況が続いている。	
	その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・7～9月期は販売量が増加し、収益が改善したものの、受注量は伸びず、先行きが不安である。	
	やや悪くなっている	食料品製造業（製造担当）	競争相手の様子	・店頭販売の売上が半分には落ち込んでいる。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・消費税増税前の駆け込み需要で一部の住宅関連の仕事は増えているが、半分以上が中国製ということで、当社としてはまあまあ上昇はしているものの、そんなに表立って良くはない。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず受注量が少なく、毎月赤字が続いている。加工業関係が7割も減っているという会社もあり、市内では全体的に厳しい状況が続いている。
		建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・例年だと、第2四半期末で受注量がある程度確保できるのだが、今年は少ない。
	悪くなっている	建設業（開発担当）	受注量や販売量の動き	・公共工事発注は前年比10%増であるが、指名、競争入札共に相変わらず最低価格で数社のくじ引き状態のため、受注額は前年比10%減が続いている。民間工事は物件数はあるものの、安値競争のため、受注はしているが利益が厳しい状況である。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
(北関東)	やや良くなっている	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・今まであまり求人がなかったが、このところ少しずつ各社募集がきている。
		人材派遣会社（管理担当）	採用者数の動き	・生産が間に合わず、派遣の採用が増えているためである。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・求人数は増加傾向であり、求職者数は減少傾向、求人倍率は上昇していることから、景気は上向きであると思われる。しかし、不安定感を拭うことはできないと考える企業が多いため、正社員求人は少ない。
変わらない	人材派遣会社（経営者）	求人数の動き	・住宅関連、土木建築関係の動きは少し落ち着いているように見受けられる。自動車の製造は横ばい状態で、新車生産台数もさほど伸びてはいないと思われる。サービス業では相変わらず介護関係のスタッフなどの募集が活発である。衣料品関係は夏物処分、秋物に切り替わるため、やや一進一退の状態である。	
	求人情報誌製作会社（経営者）	周辺企業の様子	・一部の建設関係では、消費税率が上がる前に間に合うよう、9月に駆け込み需要があり、多少売上が伸びたものの全般には良くない。求人広告の掲載企業は3か月前より今月の方がやや多い。	
	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求人数は減少傾向で推移しており、7月の新規求人数は前年同月比4.3%の減少、8月は同9.2%減となっている。一方、新規求職者数については、7月が前年同月比10.9%増、8月は同8.1%増となっている。前月も報告したが管内主要企業及びその関連企業で早期退職を募り12月から3月にかけて実施、その後4～6月にかけて追加の実施があったということで、求職者は増加している。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・8月の新規求人数は前年同月比で増加しているものの、前月比では減少となっており、あまり大きな変化はみられない。	
	職業安定所（職員）	それ以外	・引き続き有効求人倍率は上昇、有効求職者数は減少と、一見、景気が上向いているようにみえるものの、管内の大手企業では雇用調整で希望退職者の募集をしており、相当数の退職者が見込まれる。	

	民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・求人をけん引する製造業において、大手企業あるいは大手企業と直接取引する企業は若干の求人回復が始まりつつあるが、多くの一般企業は相変わらず不透明感があり、来年の消費税増税による景気後退を意識して、求人が回復していない。
	学校〔専門学校〕（副校長）	周辺企業の様子	・10月に向け求人数などは増えてきているが、前年度より飛躍的に増加するなどの傾向はみられない。
やや悪くなっている	人材派遣会社（営業担当）	周辺企業の様子	・残業削減、人員整理が相変わらず続いている、新卒採用も少ない。
悪くなっている	-	-	-